

かんしょの品種選定や高品質栽培に関する 研究取組について紹介する検討会を開催します



～ いばらき農業アカデミー「品目別先進農業技術講座」～

近年の焼き芋ブームなどにより需要が高まるかんしょですが、本県のかんしょの農業産出額は全国第1位で、県の重要な園芸作物となっています。

農業研究所では、本県に適したかんしょ品種の選定や、高品質化に向けた栽培技術の確立に取り組んでおり、今回、その取組内容を生産者や関係機関に紹介し意見交換を行います。

つきましては、是非ご取材頂きたく、ご案内いたします。

【日 時】令和6年10月31日（木） 13：15～16：00（受付開始 12：45）

【場 所】農業総合センター農業研究所（水戸市上国井町 3402）本館3階大会議室・所内ほ場
受付場所：本館3階大会議室（正門から入り、右手の3階建て建物）

【参集範囲】県内かんしょ生産者、農業関係団体、県関係機関等

【内 容】1 室内検討（13：15～15：20）

（1）農業研究所におけるかんしょ品種選定の取組（作物研究室）

（2）かんしょ内部品質異常の発生実態及び対策技術（作物研究室）

（3）ドローンによるリモートセンシングを活用したデンプン含量改善技術（環境・土壌研究室）

2 ほ場検討（15：30～16：00）

かんしょ有望品種選定試験ほ場の説明・検討（作物研究室）

※当日は圃場検討もあることから、汚れても良い服装・履物でお越しください。

※雨天の場合、圃場見学の実施可否は室内検討時にアナウンスします。



新品種「あまはづき」

（国研）農研機構が開発した新品種で、早期に収穫でき、食味は収穫直後から糖度が高く、肉質がねっとりしています。



正常



内部褐変症

内部品質異常のかんしょ

かんしょの内部品質異常（内部褐変症）は、原因が不明で、外見からは判断がつかないため、発生するとクレームの原因となります。



ドローンによる
リモートセンシング

上空からかんしょを撮影・観測することで生育状態を把握し、適切な追肥を行うことにより、デンプン含量の改善につながります。



かんしょの内部品質異常について

かんしょの内部品質異常(内部褐変症)とは、芋の内部が褐色に変色する症状です。腐敗とは異なるもので、様々な環境要因によって起きる「生理的な障害」と考えられていますが、その発生メカニズムは複雑で、原因はまだ特定できていません。外観からは障害の有無を判別できず、商品を購入した消費者などが芋を切ってはじめて発見するため、クレームの原因になることがあります。

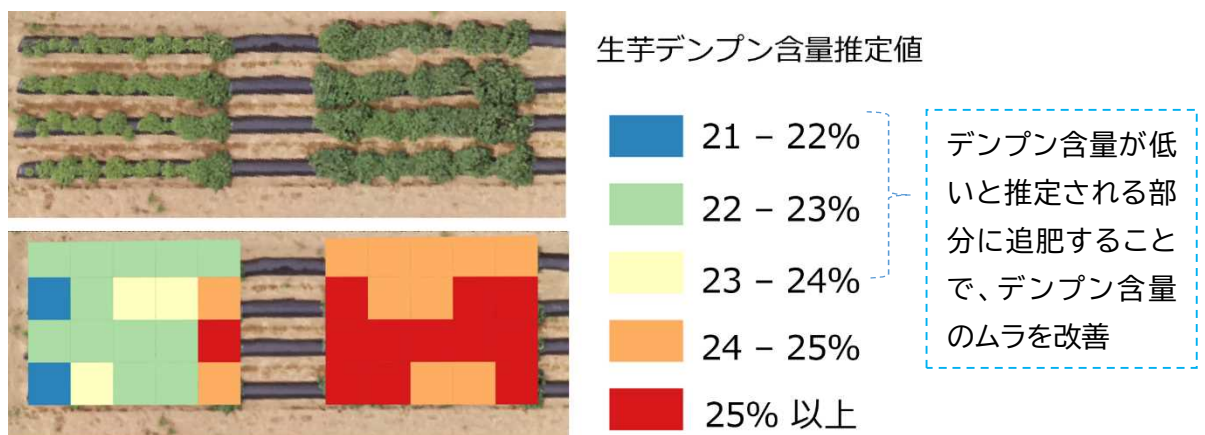
ドローンによるリモートセンシングについて

上空から地表の状態を撮影・観測する技術をリモートセンシングといいます。ドローンに専用のセンサーを載せることにより、ドローンを活用したリモートセンシングが可能です。一度に撮影できる範囲は限られますが、圃場レベルの利用としては十分であり、機動性に優れ、かつ高解像度の撮影が可能です。農業分野におけるドローンを活用したリモートセンシングの例としては、赤外線センサーによる作物の生育量や収量の把握などがあります。

かんしょのデンプン含量について

光合成により生産された糖類は、デンプンとしてかんしょの塊根(芋になる部分)に蓄えられます。蓄えられたデンプンは、一定の貯蔵条件や加熱調理により糖化しますが、かんしょの「甘さ」はその糖化した糖類の総量が多いほどより強く感じます。しかし、同じほ場内でもかんしょを栽培しても、生育にムラなどが発生すると、芋のデンプン含量もバラつくことがあります。

そこで、農業研究所では、ドローンを用いてほ場のかんしょの生育ムラを空撮し、撮影した画像をもとにデンプン含量を推定する研究を進めています。デンプン含量が低いと推定される部分については、追肥を行うことにより、デンプン含量のバラつきを改善する手法の確立に取り組んでいるところです。



ドローンのリモートセンシングにより推定したかんしょの生芋デンプン含量

※上図はドローンにより、ほ場のかんしょを空撮した画像。同一ほ場でも生育にムラがある。

※下図は空撮した画像をもとに生芋デンプン含量を推定し割合別にプロットしたもの。